

宮古教育時報

発行者 沖縄県教職員組合
 宮古支部 情宣紙
 TEL 72-3328 FAX 73-2603
 ◇ 各分会の情報をお知らせ下さい。
 E-mail: otu-m@miyako-ma.jp

沖縄発信の教育のあい方提言！

第57次支部教育研究集会教育講演会にて

10月15日(金)、第57次支部教育研究集会全体会&教育講演会を開催しました。諸々の行事等の兼ね合いで始めのうち参加人数がまばらだったものの、最終的に約50名の方が参加しました。

講師に善元幸夫さん(現立教大学非常勤講師)を招聘し、「沖縄発信の『学びの共同体』・『ゆんたくの学力』を求めて～今、授業がかぎりなくおもしろい～」と題して講演会では、日本全国の教育を取り巻く環境を憂慮(教師の仕事は教育委員会の報告、行政からの調査、さまざまな会議、集金、などに振り回られ、とにかく落ち着く暇がない。)しながら、特に沖縄の学力問題では、「全国学力調査では毎年最下位。ここでも教師は圧力を受ける。学力向上の施策が、むしろ教師の心もむしばむ。しかし子どもの低学力は教師の力量だけでない。『格差社会』の存在である。全国の県民所得最下位が沖縄(2007年)で、その額は1位の東京の半分にも達しない。10代で母親になった女性の半数が未婚(「沖縄県小児保健学会」2002年)で、親からの経済支援を必要としている母親が少なくない。これでは教師だけに責任を押し付けてもうまくいくはずがない。元来、教育は目の前にいる子どもたち一人ひとりの「人格の完成」にある。そこで問題になるのはどのような子どもになってほしいか、本来子どもの持つ豊かな感性をどう引き出すかである。」と参加者との対話形式を取りながら説明した上で、「いま沖縄で求められていることは全国に競争の学力をつけることなのであろうか。競争原理で勝ち残ることを教師が本気でやったら20年後の沖縄はどうなるか。」と強調。「それは他者に冷たく、思いやりのない『乾いた社会』にならないだろうか。沖縄の歴史が培ってきた文化、価値観とは相容れない。沖縄社会は相互扶助の『ゆんたく社会』であり、それが『生きる力』、学力なのだ。『学力の本土化』は子どもの輝きがなくなる。子どもを中心に据え(子どもを放任することとは違う!)『共に生きる学力』(共に教師も子どもも学ぶ)、それを『ゆんたくの学力』と名付け、目指していきたい」との考えを示した。



その他、数々の資料も提示してくれました。若干資料の方が支部に残っていますので、希望者は支部まで連絡下さい。分科会は10月23日(土)東小にて午前9時15分より!多くの方の参加をお待ちしております。レポートや実践ワークシート等ある方は是非お持ち下さい(楽&待)

研究会に参加してきました!

今回は事務職員部のお二方の研究大会参加報告です。若さ溢れる宮古支部のホープさんです。

去った7月28日～30日間、全国事務研究大会に参加させて頂きました。初めての全事研ということもあって、全国から集まった同じ事務職員の方々を前に不安と期待でいっぱい3日間を過ごしました。全国の最新の取り組みを聞くことができ、そのレベルの高さにただただ圧倒させられました。まだ採用2年目ということもあり、目の前の業務だけで手一杯な私にはまだまだ考えが追いつきませんでした。が、「教育活動に間接的じゃなく直に関わっている」という意識を持つことが大切だということにとっても共感しました。また、沖縄県の他地区の方との交流を通して良い刺激をもらうことができ、改めて事務職員としての自分を見つめ直し、新たな気持ちで頑張ろうと思いました。今回学んだことを基に、日々の業務をしっかりと行い、より知識を深め、先生方に安心して教育活動に専念して貰えるように頑張っていきたいです。有意義な時間を与えて頂き、ありがとうございました。

久松中分会 事務主事 狩俣ゆきえ

平成22年7月28日(水)～30日(金)、徳島市において開催された「第42回全国公立小中学校事務研究大会」に参加しました。宮古島から那覇を経由して神戸空港まで2時間半飛行機に乗り、そこからバスで3時間かかり、徳島に着きました。

“子どもの豊かな育ちを支援する学校事務”のテーマのもと、熱い研究討議が行われ、全国のレベルの高さに圧倒されながらも、あっという間の3日間でした。私はまだ3年目で経験も浅くて、話しを理解するのがやっとでしたが、全国の雰囲気や味を味わえたということ、他県の事務職員の方のお話しが聞けたことで、とても勉強になりました。また、沖縄県の他地区の事務職員の方とたくさんの交流が持てたことも良かったと思います。全国大会に参加して、早いうちに自分がどのような事務職員になりたいかを考える必要があると感じました。仕事に少し慣れてきた今の時期に、自分の将来の姿を考える良いきっかけとなりました。ありがとうございました。

狩俣中分会 事務主事 根間久美子

オールディーズバンドも参加?!

今年で9回目をむかえ恒例になった宮古支部“うりずん祭り”が10月10日(日)に盛大に開催されました。青年部を中心に企画・運営を行うこの大イベントは、新規組合員加入者とお互い組合員とその家族、さらには地域を巻き込んだ行事として成長し、毎年うりずんの季節に行っていますが、今年は諸々の行事との兼ね合いもあり、サシバ飛ぶ秋の季節に開催しました。夏のムシムシとした季節より、涼秋の漂う気持ちよさに、運営に携わってくれた青年部のみなさんもよい気分!参加者も400名近くにのぼり、大成功!

今回はステージの部に、ケンセイバンド以来の小学校教諭によるバンドが急遽結成&参加し、懐かしい60年代にヒットしたナンバーを中心に歌やダンス、60'Sを彷彿させる衣装でまつりに華を添えてくれました。また、宮古が生んだ伝説のフォークシンガーのひなひろしさん(沖縄フォーク村出身)がベースに森田保さんをむかえ、秋の季節にマッチした歌の数々(季節はずれをはじめサシバ飛んだか等、ラストにはうりずんの島)を惜しげもなく披露してくれました。

また、お楽しみ大抽選会では、液晶テレビ(ユウ電機ショップ提供)、三万円相当の旅行券(沖縄ツーリスト提供)や折りたたみ自転車(沖教済提供)をはじめ学校生協や沖学品、ろうきん宮古支店やあずき屋からの沢山の商品提供の協力があがり、多いに盛り上がりました。まつりのフィナーレでは、打ち上げ花火が秋の夜空に大々的に咲き、「たまや〜!」気分を味わうことができました。企画・運営に携わった青年部のみなさんをはじめ、多くの方のご協力や援助がありこのうりずん祭りが天気にも恵まれ楽しく開催できたことに心より感謝の意を表したいと思います。本当にタンディガータンディ!



ジャンケンゲームで子どもたち大興奮!



オールディーズヒットメドレー炸裂!



液晶テレビとったど〜!!

人事異動学習会参加呼びかけ

光陰矢のごとし!早いもので今年も人事異動学習会の季節がやって来ました。人事異動は、私たちに教職員の労働条件や生活・権利に深く関わる重要な問題だと思えます。学校現場では駅伝競技等の取り組みや文化行事での準備、さらに教育課程など息つく間もない毎日だと思いますが、人事異動対象者(特に、へき地異動希望者や管外異動希望者)や分会長はじめ関心のある方は是非参加して下さい。学習会日時・場所は次の通り。平成22年10月28日(木)午後6時30分~ 宮古教育会館2F

先だって10月18日には2011年度人事異動第1回県教育庁交渉(要求書提出)がありました。その中で特に交渉議題の中心にあがったものに、養護教諭・栄養職員・事務職員・学校栄養職員の離島・へき地へ2回以上経験する方針に関して今後とも組合と協議すること、特殊事情の申し入れを校長段階で判断させないこと、また教員候補者選考試験については、受験資格年齢の引き上げ要求はもちろんのこと、現在の条件付き37歳までのに関して、条件整備をしっかりと欲しいなど要望をあげました。宮古教育事務所においての人事異動要求書提出日は10月25日(月)を予定しています。

*10月21日現在本年度新規加入者数計31名(内臨時教諭14名)未加入者への声かけよろしくね!

